

2 新たな道路計画の詳細

安全 広い歩道を整備して歩行者の安全を確保

- 車いすとのすれ違いも可能である幅3.0mの歩道を整備
- 幅が現在よりも2倍以上広く安全



快適 4車線整備により快適な通行を確保

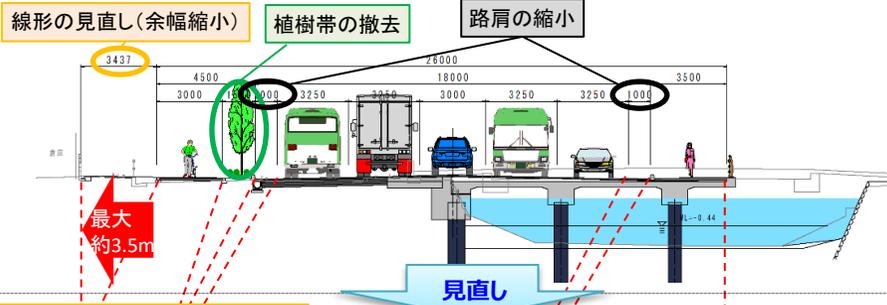
- 交通量に十分対応可能な4車線に拡幅
- 交差点部には右折レーンを設置し混雑を抑制
- 広い車道の整備により大型車が通行しても安全
- 高知インターチェンジと高知市中心部とのアクセスが向上
- 市街地環状ネットワークを形成し市街地の混雑を解消



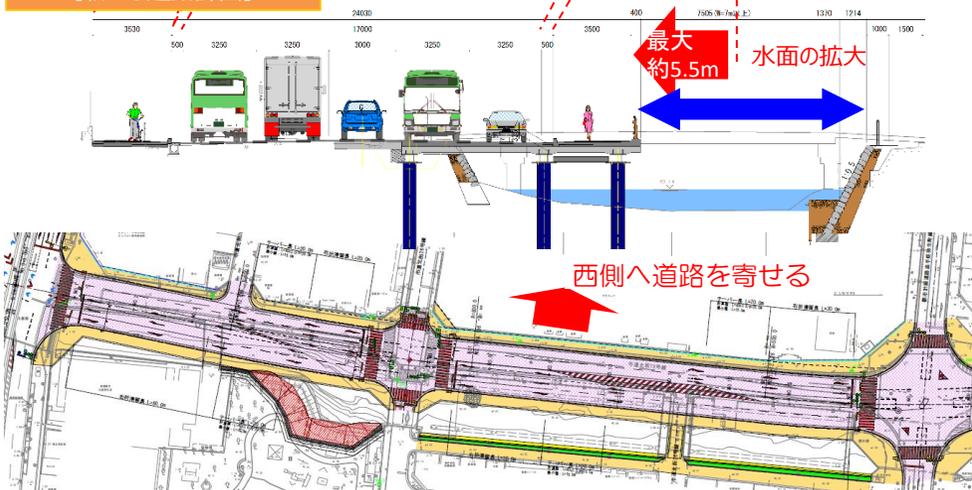
水辺の生態系に配慮した道路設計

- 安全で快適に通行できる幅員を確保したうえで道路の線形と幅員を見直し、希少種が生息・生育可能な水面を創出。

【工事中断時の計画】



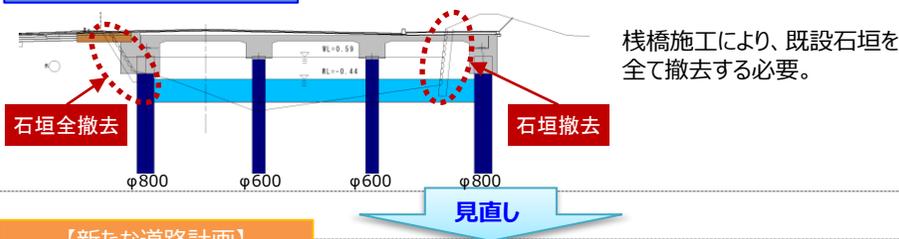
【新たな道路計画】



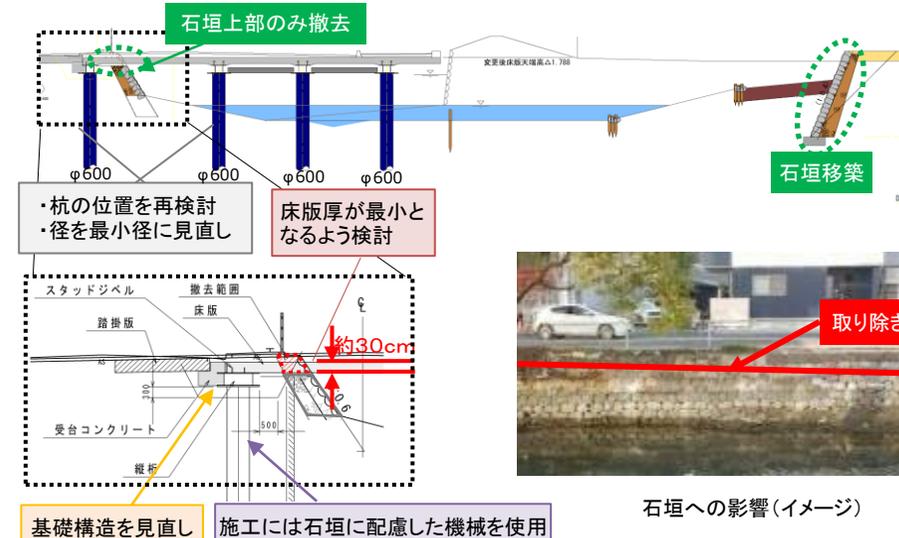
石垣に配慮した道路設計

- 栈橋の杭の配置の見直し、石垣に配慮した施工機械の採用により、石垣への影響を軽減。
- 石垣の撤去範囲が最小限となるよう、栈橋の床版厚を最小としたり基礎構造を見直し。

【工事中断時の計画】



【新たな道路計画】

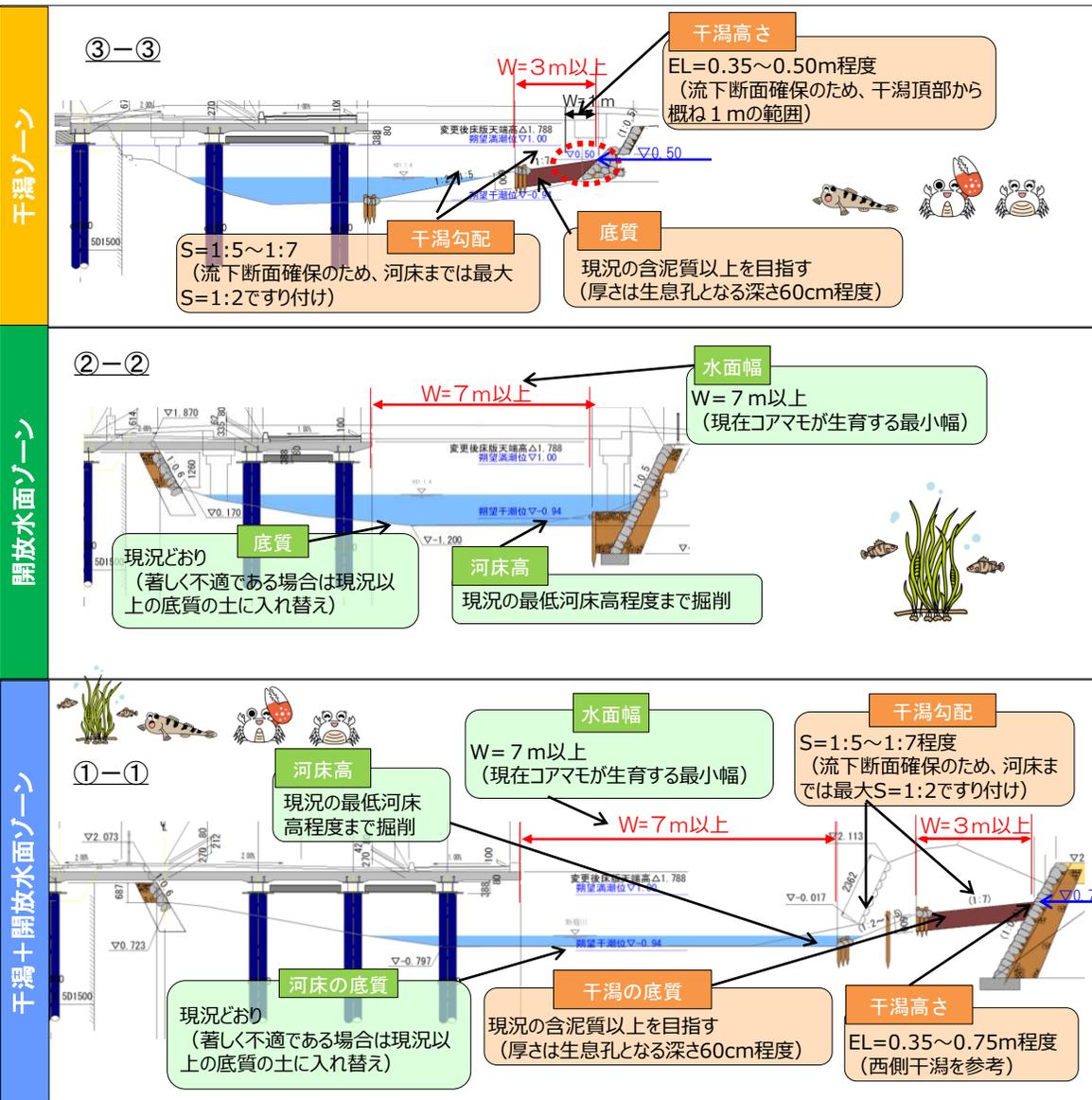


石垣への影響(イメージ)

水辺環境の整備方針

現在よりも日の当たる水面の面積を約20%拡大

- 干潟高さなどの諸条件は、現況の新堀川やその他の主要な生息地のデータをもとに決定。
- 創出した環境は、工事完成后5年程度はモニタリングを行い、専門家の意見をもとに必要に応じて改善しながら干潟や水面を保つ。



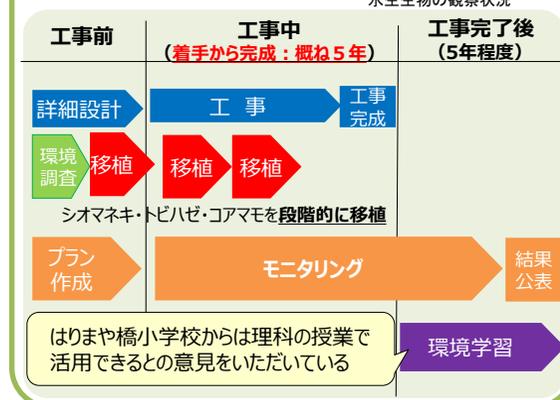
移植計画

- 公園を切り込み、生物の生息・生育環境を確保。
- 栈橋工事前に、切り込み部の造成干潟等へ希少種を段階的に移植。



モニタリング

- 工事完成後は、小学生や地元住民の皆さまの環境学習の場としての活用も可能。



石垣の整備方針

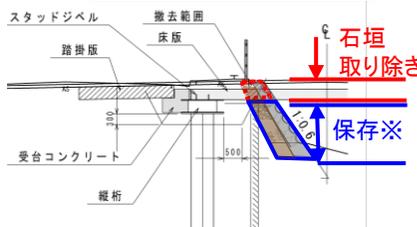
- 現況の石垣をできる限り保存。
- 生物の生息環境を確保するため切り込みを行う横堀公園前の石垣は、新堀川に残る最も古い石垣と推定されることから、現状の材料や形状、積み方で移築。
- 駐車場下のコンクリート擁壁部は、駐車場を撤去し、下町の堀の風景や、慣れ親しまれた西側石垣の風景を創出。

電車通り～新堀橋(布積み)

※保存部が健全ではない場合：
木の根等による変状箇所は、
間詰め石による補修または
布積みによる積み直し



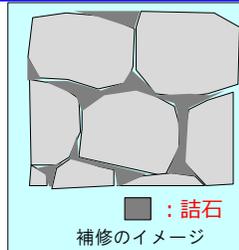
電車通り～新市橋(石垣)



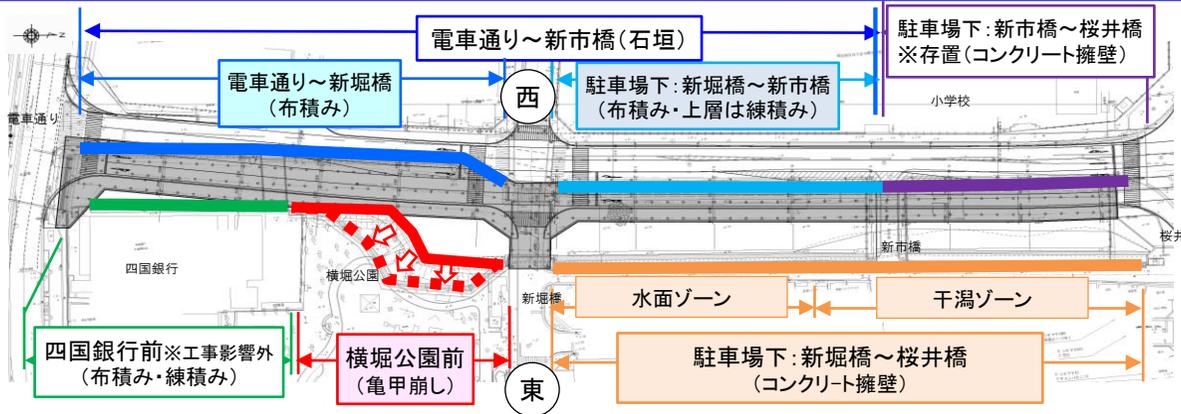
駐車場下:新堀橋～新市橋(布積み・上層は練積み)



※保存部が健全ではない場合：
はらみ出しや崩壊した場所は、
間詰め石による補修または
布積みによる積み直し



四国銀行前(工事影響外)



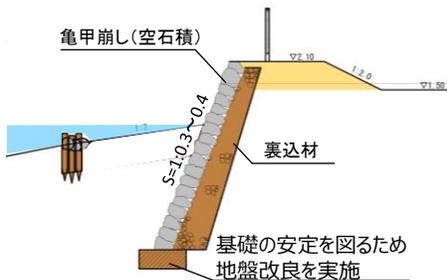
横堀公園前

- 既設石材を活用し、現況の勾配、積み方、形状を移築。
- 不足する石材は、石灰岩を調達。

亀甲崩し(石灰岩)



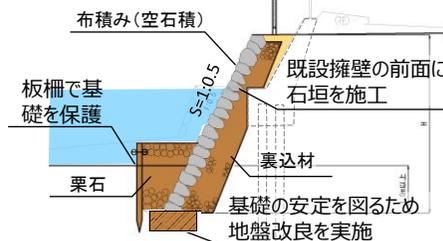
【安政～明治頃の石垣と推定】



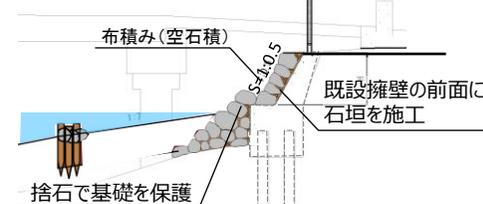
駐車場下:新堀橋～桜井橋(コンクリート擁壁)

- 周辺に調和した風景を整備。
- 石材は、西岸の石材を流用し、不足石材は県内産の砂岩を調達

水面ゾーン 布積み(花崗岩・砂岩)



干潟ゾーン 布積み(砂岩)、捨石



学びの場 都市の営みを伝える学びの場

- 新堀川(横堀)は、城下町のまわりにつくられた惣構えのため堀の一部。
- 新堀川のある下町周辺は、土佐藩の交易の玄関口として水運で栄えた。
- 都市の発展に伴い、水運から陸運へ徐々に移行し、工場排水や生活排水により、新堀川の水質が悪化していく。
- 下水道の整備や、環境保護への意識の高まりなどから水質が少しずつ改善し、今では新堀川に希少種が確認されるまでになった。
- また、新堀川には、亀甲崩しや布積みなど、人々の営みの変化が感じられる堀の石垣が残っている。



スクリーン

正保土佐国城絵図

石垣の保存や歴史看板の整備

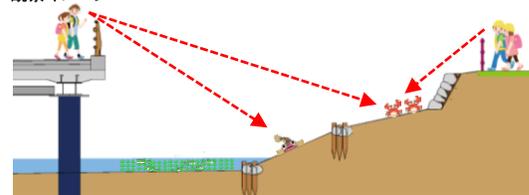
地域の皆さまに、都市の営みの歴史をより深く知っていただく学びの場となることを目指す。

観察の場 まちなかにすむ希少種の観察の場

- 希少種の生息環境に配慮し、干潟高を現況より高くするため、干潟にすむ生物をより近くに見ることができる。
- 新堀川にすむ希少種をキャラクターにし、子ども達や地域の人々が親しみやすい環境を創出。
- また、希少種の生態を解説する看板を設置し、観察の場を創出。

日頃から新堀川にすむ生物に親しみ、観察する場となることを目指す。

観察イメージ

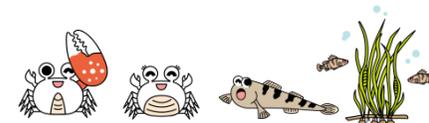


新堀川に親しむ空間整備

- 干潟や水面を近くで眺めることができる新堀川東側には、土色の舗装や、植栽、ベンチの配置を計画。
- 新堀川に親しむ空間となることを目指す。

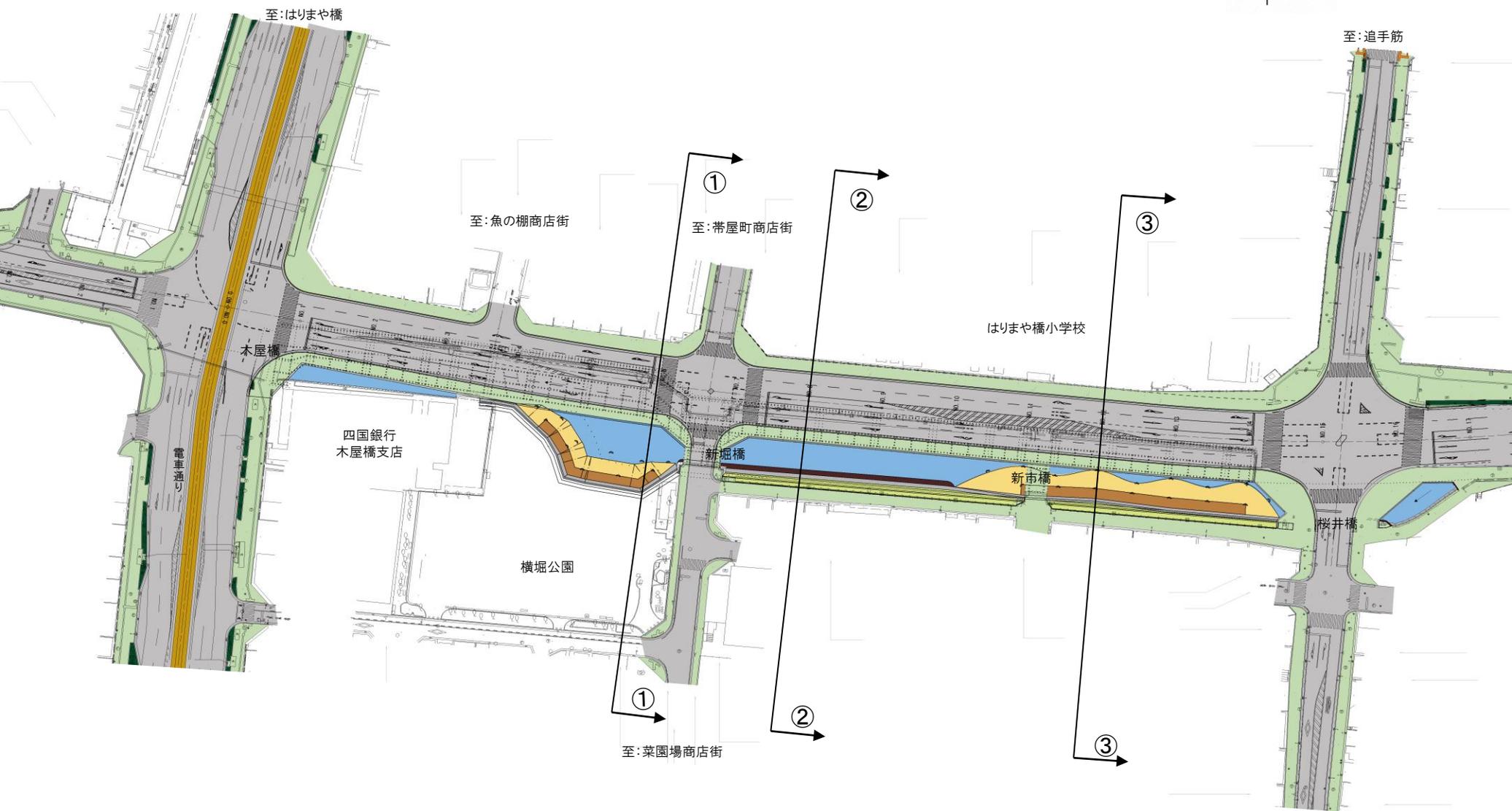


東側市道のイメージ

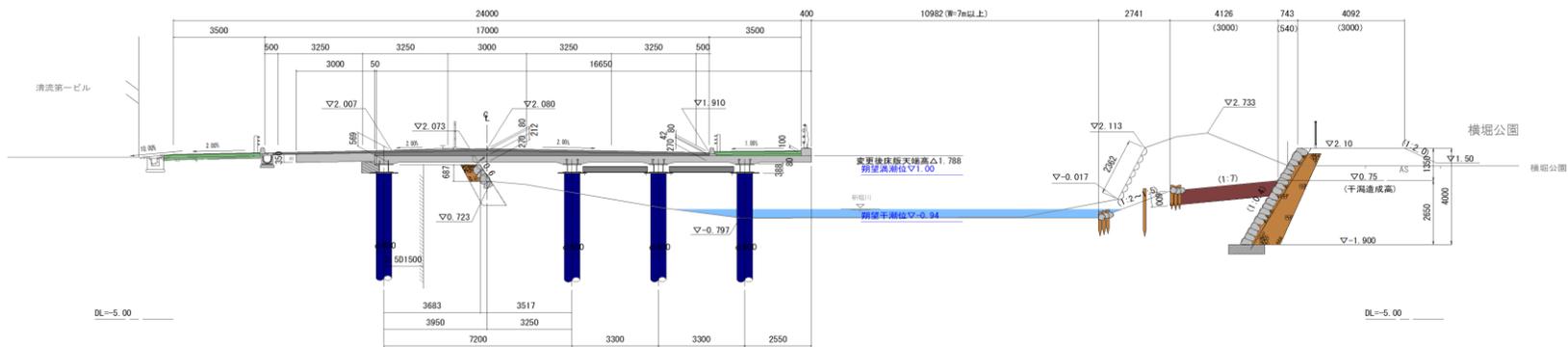


学びの場・観察の場の整備のイメージ

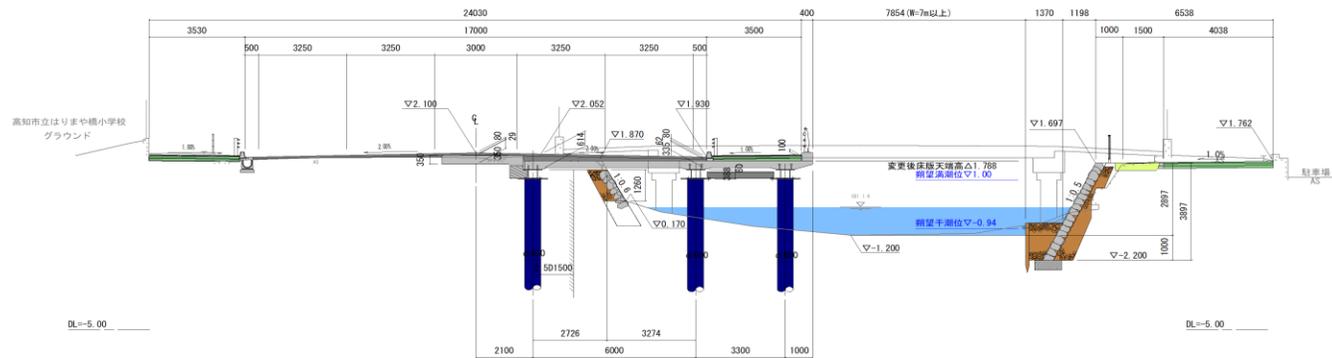




①-①



②-②



③-③

